



THINK × ACT
KANSAI
UNIVERSITY

CTL

Kansai University Center for Teaching and Learning
Newsletter

関西大学 教育開発支援センター
ニュースレター

June 2013

vol. 12

インキュベーターとしてのCTL



教育開発支援センター長 田中 俊也

関西大学ほどの大規模な私立大学で、新しい教育的な取り組みを全学的な合意を得て始めることは極めて困難である。勢い法人や教学コーナーからのトップダウンの声掛けや、志のある部署からの突発的提案という形で踏み出してしまうことになりかねない。

本学では、そうした、学部の枠を超えた全学的な教育的取り組みに責任を負う部署として2008年に教育推進部が設置され、その中でも、そうした新たな取り組みを育てていく部門として教育開発支援センター（CTL）が存在する。ここでは必要に応じて「プロジェクト」を立ち上げ実施することがミッションの1つとして明記されている。いわば新たな教育的取り組みの試行的実験の場の設定であり、その卵を大切に温めて孵化させることをミッションとする。孵化した後は、関西大学の新たな部署の1つとして独立して機能していただければいいのであって、いつまでもCTLが抱え、その影響力を誇示しようなどという覇権主義的発想は一切持たない。

孵化器（インキュベーター）の役割が主であって、それが関西大学の発展に寄与することを強く確信している。

一昨年来、CTL内に、全学ICT活用推進会議、ライティング支援プロジェクト、学生の教育力活用プロジェクト、学習環境デザインプロジェクト等を立て続けに立ち上げてきた。これらはそれぞれ、高等教育機関としての関西大学の教育にとって欠くことのできない、ICT活用、書く力の育成、学生自身の持つ教育力活用、授業の教室以外での学びの空間のデザインという、きわめて重要な課題に対応するプロジェクトであり、それぞれの運営組織がやがては自律的に動けるようになることが期待されている。

親鳥は派手なパフォーマンスもなくじっとしているかにみえるが、卵を孵化させる、という重要な仕事を担っているのである。そういう仕事を「ミッション」とした部署を創設した関西大学はきわめて健全な未来志向の大学として胸を張れるものである。インキュベーターなき組織には衰退の道しか存在しない。